

様式第 4 号

|  |  |
|--|--|
| 課題名  | 回復期リハビリテーション病院に転院した急性期脳卒中患者の補助栄養摂取効果の検討  |
| 承認番号   | 2022-41 番  |
| 研究機関名  | 横浜市立みなと赤十字病院   |
| 研究責任者  | 所属 リハビリテーション部 氏名 芹澤 健輔   |
| 研究期間   | (西暦) 2023 年 2 月 ～ (西暦) 2023 年 5 月  |
| 研究の意義・目的   | 回復期リハビリテーション病院転院時、脳卒中の患者さんの低栄養が多く認められており ADL (日常生活動作) の回復の遅れが報告されています。また臨床的にも急性期病院入院中の体重減少も著しいです。当院の NST (栄養サポートチーム) の活動では、全身の状態やリハビリの強度に応じて、栄養介入の一環でリハビリ患者さんに BCAA (分岐鎖アミノ酸) 含有飲料を摂取していただいています。今回、脳卒中で当院に入院し、回復期リハビリテーション病院へ転院を目指す患者さんに補助栄養として BCAA 含有飲料を選択した効果を明らかにすることを目的とし検討を行います。 |
| 研究の方法<br>(対象期間含む)  | 2020 年 4 月～2022 年 3 月までに脳卒中で当院に入院され、3 食経口摂取ができ、回復期リハビリテーション病院へ転院された患者さんを対象にします。その中で、NST の判断により BCAA 含有飲料が補助栄養として選択され、同飲料を摂取された患者さんのグループと摂取されなかった患者さんのグループの栄養状態や日常生活動作の回復を、カルテ情報をもとに比較し検討を行います。   |
| 試料・情報の利用目的及び<br>利用方法<br>(匿名加工する場合や他施設へ提供<br>される場合はその方法を含む) | データはカルテより抽出し本研究の目的以外に使用しません。研究用の ID を作成し、個人が特定できない情報を運用します。データファイルは、パスワードを設定し、対応表は外部のインターネットとは接続されていない院内電子カルテサーバーにて管理します。  |
| 利用又は提供する<br>試料・情報の項目                                       | 年齢、性別、体重、BMI (Body Mass Index)、Barthel Index※ <sup>1</sup> 、ALB 値※ <sup>2</sup> 、入院期間、リハビリ実施日数、BCAA 含有製剤摂取期間<br>※ <sup>1</sup> Barthel Index : 日常生活動作を評価するための尺度<br>※ <sup>2</sup> ALB 値 : 血液中のタンパク質  |
| 試料・情報を<br>利用する者の範囲   | リハビリテーション部 芹澤健輔  |
| 試料・情報の管理における<br>責任者の氏名又名称<br>(当院及び提供先)                     | 横浜市立みなと赤十字病院 リハビリテーション部 芹澤健輔   |
| 問い合わせ先   | 当研究に自分の情報を使用してほしくない場合等のお問い合わせ<br>〒231-8682 神奈川県横浜市中区新山下 3-12-1<br>横浜市立みなと赤十字病院<br>所属 リハビリテーション部 氏名 芹澤 健輔<br>TEL:045-628-6100 (代表) 内線 3808 (事務局) /FAX:045-628-6101  |